



連合駿台会報

No.355 令和4年1月20日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六―四七四七
印刷 有限会社 美創

謹賀新年

連合駿台会
会長 田村 駿



会員の皆さまには健やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は前年に引き続き新型コロナウイルスの厳しい環境下におかれ、当会も学術賞・学術奨励賞の授賞式や例会など各種活動が中止となりました。

世界的にも、地球を次の世代につなげるためSDGsが広く叫ばれている中、米国大統領も保守派のトランプからリベラル派のバイデンに代り、中国は共産党結党一〇〇周年を迎えた習近平体制の行方が注目され、そして日本も、安倍―菅政権から岸田政権となり、大いにその手腕が期待されているところですが、いずれにしても、コロナ禍を含め、国内外にそれぞれ課題を抱えており、今後の展開は予

断を許さないものがあるように思えます。

昨年わが明治大学は創立一四〇周年を迎え、十一月一日アカデミーホールにおいて、寛仁親王妃信子殿下をお迎えして盛大に記念式典を挙行しました。そして、連合駿台会が団体代表として「功労賞」を受賞いたしました。これは、会員の皆さまがOBとして日ごろから大学の発展に大きく寄与していることが評価されたものであります。なお、七月には創立一四〇周年を祝し、一千万円を寄付、柳谷理事長より感謝のお言葉をいただきました。

また、明るいニュースで沸いたスポーツ界で、「前へ」とチャレンジしたアスリートの活躍に心が躍りました。一年延期開催の二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックはコ

ロナ感染者数がピーク時でしたが、無観客で開催され、本学出身の卓球の水谷隼が念願の金メダルを取るなど史上最多のメダル獲得数を記録しました。そして、MLBではエンゼルスの大谷翔平がリアル二刀流で大活躍、最高の栄誉であるMVPを満票で獲得するなど賞を総なめにし、さらに、マスターズゴルフでは松山英樹が日本人初の優勝を成し遂げました。

明治大学も新たな年を迎え心機一転、創立一五〇周年を見据えて長期ビジョン「MEIJI VISION 150 ―前へ―」がスタートします。五つのビジョンのもと、可能な限り数値目標を設定して、進捗状況を年度ごとに可視化できるように構成されたものです。当会もこれを受け、「大学の発展に寄与する」という大命題を実践するため「大学支援委員会」（伊原敏雄委員長）が中心となって「何ができるか？」について協議を開始しました。

当会は、二〇〇二年に茗水クラブと明友クラブが統合して連合駿台会となり、今年でちょうど二〇周年を迎えます。成人した会として、更なる第一歩を踏み出したいと考えております。新型コロナウイルスのオミクロンなど変異株が世界でまん延しておりますが、一日も早い終息を見て、会員の皆さまと連合駿台会にとって素晴らしい一年となりますよう、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



連合駿台会の皆様と共に「前へ」

二〇二二年の年頭にあたり、謹んでお慶びを申し上げます。連合駿台会の皆様には、平素より本学発展のために多大なるご理解とご支援を賜り、学校法人明治大学を代表し厚く御礼を申し上げます。昨年コロナ対応に追われ続けた日々でしたが、今年こそ学生達がいっきとキャンパスライフを送れる年に、そして皆様と共に肩を組んで声高らかに校歌を歌える年になることを願っています。

ところで、今年の干支は「壬辰（みずのえとら）」です。壬は「陽氣をはらむ」、寅は「春の草木が生ずる」との意味で、壬辰は「厳しい冬を越えて芽が吹き始め、新たな飛躍の礎となる」と云われる年です。そしてまた寅は「決断力と才知」の象徴とも云われています。本年を連合駿台会の皆様と同心協力して、次の創立一五〇周年に向けた新たな飛躍の一年にしたいと考えています。

さて、二〇二一年を振り返りますと、一月十七日に、本学はおかげさまで創立一四〇周年を迎え、創立記念祝日である十一月一日に、記念式典を挙行いたしました。当日は連合駿台会の皆様にも多数ご臨席を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。式典では、寛仁親王妃信子殿下、萩生田経

済産業大臣、義本文部科学事務次官、田中私大連会長からご祝辞を賜りました。また、これまでの大学発展への貢献に対し、連合駿台会を功労団体として表彰させていただき、受賞七団体の代表として田村会長に表彰状と盾をお渡しさせていただきました。

なお、和泉キャンパスにおける新教育棟「和泉ラーニングスクエア」や「明治大学子どもこのころクリニック」などの各種記念事業を支える「創立一四〇周年記念事業募金」に対しまして、連合駿台会より昨年七月に一千万円もの多大なご寄付を賜りました。心より感謝申し上げます。

さらに式典では、創立一五〇周年という大きな節目となる二〇三一年に向け、第二次長期ビジョンである「MEIJI VISION 150「前へ」」を学長とともに公表いたしました。学長のもと策定した「明治大学グランドデザイン二〇三〇」に大学経営における全学ビジョンが加わり、法人と教学が一体となったビジョンが完成しました。強固な財政基盤を確立し、ニューノーマル時代に対応する教学と法人のガバナンスとコンプライアンスを強化することで、明治大学ならではの研究・教育を持続的に支えます。

また、創立一五〇周年に向けた大きな計画として、神田猿樂町地区を中心とした駿河台キャンパス再開発や生田第2中央校舎建設といった各キャンパスにおける施設整備計画や、将来にわたり安定した入学者を確保するための付属校政策も進めてまいります。本学がこの二十一世紀にアジアのトップユニバーシティ、そしてアジアのハブとして未来に輝き続けていくために、次の創立一五〇周年、更にその先も皆さま方と共に「前へ」と邁進してまいります。

また、医学部のない本学ではありますが、昨年九月からワクチンの大学拠点接種を実施し、一人を超える学生や教職員が二回目のワクチン接種を完了いたしました。なお、本学の学生及び教職員等の安全を確保し、新年度における対面授業継続のため、現時点では六月頃に三回目の大学拠点接種を実施予定であることも併せてご報告申し上げます。

結びになりますが、本年も引き続きのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、連合駿台会の皆様方のさらなるご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝



次の十年の飛躍―創立一五〇周年にむけて―

二〇二二年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年十一月、明治大学は創立一四〇周年を迎え、寛仁親王妃信子殿下のご臨席を仰ぎ、数多くのご来賓、関係者の皆様のご臨席のもと、記念式典を挙行了しました。

本学は一八八一年（明治十四年）、わが国が近代国家建設を急いでいたその時に、「近代市民社会を担う聡明な若者を育てたい」という高い志と教育への熱い情熱を備えた、若き三人の法学者によって、明治法律学校として設立されました。しかし、私立学校として設立された本学の歴史は、決して平坦なものでなく、一八九〇年頃に生じた民法典論争でドイツ法学が勝利を収めるとフランス法学を基礎としていた本学は、大きな軌道修正を迫られました。そして一九二三年に発生した関東大震災では、本学の校舎・図書館等はすべて灰燼に帰し、その復興は文字通り学生・教職員・校友の粘り強い協働によって成し遂げられました。現在の明治大学が、わが国屈指の総合大学の一つとして存在している背景には、幾多の困難や危機に直面するたびに大学関係者が「同心協力」し、「権利自由」「独立自治」の理念をその時々時代の中で具現化

してきたことにあると考えています。

こうして、創立一四〇周年を迎えた本学ですが、今また百年に一度という地球規模の問題に正面から立ち向かっています。二年が経過しても未だ終息をみない新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、単に「大学の日常」を一変させただけでなく、近代文明そのものあり方、その中で人間活動のあり方を問い直し、新たな文明モデルを創造するという重大な課題を浮かび上がらせることになりました。今、高等教育機関である大学は、人間の生存と尊厳を脅かす問題に正面から向き合い、これを解決する技術・システム・思想・知恵を生み出すという重大な役割を担っています。

先の見通せない予測不可能な現代社会は、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）が複雑に絡み合う「VUCA（ブーカ）の時代」と呼ばれますが、現代社会はまさに、様々な要素があざなえる縄のごとく複雑に絡み合い、問題の解決や将来への見通しをより一層難しいものになっています。その困難にあって、人々は焦燥感や閉塞感を募らせ、時に意見を異にする人を許容できなくなることはよく知られています。

こうして生み出される社会の分断は、たださえ困難な問題の解決を、更に困難にする危険性を秘めています。

「権利自由」「独立自治」を建学の理念とする本学は、「人間が人間として生きるに値する平和な社会（世界）」の創出を目指す研究・教育の拠点でなければなりませんし、これからもそのために地道な努力を続けてまいります。創立一五〇周年に向けて、学生交流を基盤に世界の大学と講義や研究を、そして教員・研究者を共有する、いわば国を超えた「教育・研究の融合」を実現するための準備を進めて行く所存です。そして、世界の諸問題に正面から立ち向かい、自ら状況を切り開く「前へ」の精神を持ち、問題解決への道筋を提示できる「Thinkers」であると同時に、そのアイデアを社会実装できるDoers（実行者）を広く社会に送り出して参りたいと存じます。その実現のために、連合駿台会の皆様とも活発な議論を交していきたいと考えております。

結びにあたりまして、連合駿台会のみならずのご発展と会員各位のご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

明治大学
学長

大六野 耕作





株式会社新都心エージェンシー

代表取締役

安達 明正

〒163-0436

新宿区西新宿二一〇一
TEL 三三四五〇七六八二
FAX 五三三三〇七七六五足立会計事務所所長
株式会社足立経営サポート取締役会長

足立 吉松

〒410-0832

静岡県沼津市御幸町二四一三〇
TEL 〇五五九三二一六三九一
FAX 〇五五九三二四〇一二五
明治大学校友会静岡県支部顧問

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役
社長

阿部 倫明

〒980-0004

仙台市青葉区宮町三〇八一三三
TEL 〇二二二二五〇一〇八一
FAX 〇二二二二五〇一〇八一

株式会社山口フィナンシャルグループ

専務執行役員
市場事業本部長

荒木 吉哉

〒103-0021

中央区日本橋本町三三三三五
TEL 三三三三三三三三三三
FAX 三三三三三三三三三三明治大学評議員
連合駿台会顧問

有賀 隆治

〒105-0001

港区虎ノ門一〇二二一〇一六〇一
TEL & FAX 三五八一七七八〇

株式会社埼玉りそな銀行

取締役会長

池田 一義

〒330-9088

さいたま市浦和区常盤七四一
TEL 〇四八八二四二四二一

株式会社ニチレイフーズ

顧問

池田 泰弘

〒104-8402

中央区築地六一九一三〇
ニチレイ東銀座ビル
TEL 三三三三三三三三三三
FAX 三三三三三三三三三三

大栄不動産株式会社

代表取締役
社長

石村 等

〒103-0022

中央区日本橋室町一〇一八
TEL 三三三三三三三三三三
FAX 三三三三三三三三三三

三八五流通株式会社

専務取締役

泉山 和久

〒039-1189

青森県八戸市長苗代上中坪三五一一
TEL 〇一七八二七四一四一
FAX 〇一七八二七一五〇九

株式会社C.P.O.設計

代表取締役
社長

伊東 正博

〒163-0444

新宿区西新宿二一〇一
新三井ビル四四F
TEL 五三三二五九六二二
FAX 五三三二五九六二二

丸紅建材リース株式会社

常務取締役
経理部長

猪田 忠

〒105-0011

港区芝公園二一四一
芝パークビルA館九F
TEL 五四〇四一八九三七
FAX 五四〇四一八九三九

連合駿台会

大学支援委員会
委員長

伊原 敏雄

〒173-0025

板橋区熊野町一二一六
TEL & FAX 六七八九七七三三学校法人明治大学理事
明治大学校友会相談役

岩田 守弘

〒520-0052

滋賀県大津市朝日が丘一一四一六
TEL & FAX 〇七七五二六〇八〇二

株式会社りそな銀行

代表取締役
社長

岩永 省一

〒135-8581

江東区木場一五一六五
深川ギヤザリアWII棟
TEL 六七〇四二二一一
FAX 五三三二五五五九

上田廣二法律事務所

弁護士

上田 廣一

〒104-0031

中央区京橋二一〇二一三
TEL & FAX 六二二八六四四〇

タイヨー株式会社

取締役

上西 紘治

〒244-0803

横浜市戸塚区平戸町七七五一一〇
TEL 〇九〇三三三三三三三
FAX 〇四五八二二二二二二

学校法人明治大学

 経営企画担当
常勤理事

大原 幸男

 〒101-8301 千代田区神田駿河台一〇一
 TEL 三二九六四〇〇〇
 FAX 三二九六四三三八

ペップ・メイツ株式会社

 代表取締役
大前 実之

 〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一四一〇一四F
 TEL 三六六三三八八二七
 FAX 三六六三三八八二八

 安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

 最高顧問
大村 託現

 〒124-0023 葛飾区東新小岩五〇八一一二
 TEL 五八七五七三三〇
 FAX 五八七五七三三六〇

株式会社アマダ

 取締役
相談役 **岡本 満夫**

 〒259-1131 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
 TEL 〇四六三一九六一一一
 FAX 〇四六三一九四一九七八四

株式会社カナエ

 代表取締役
社長 **金子 圭太**

 〒105-0013 港区浜松町二一〇一〇一ニ
 TEL 三三三二一五四一〇
 FAX 三三三二一五四一〇

株式会社インソース

 テレタイプ
アドバイザー

狩野 省市

 〒116-0013 荒川区西日暮里四一九一一二
 TEL 五五七七二二七三

有限会社小田原屋

 会長 **神田 達治**

 〒140-0002 品川区東品川五一九一六
 品川イーストシティタワー二五〇三
 TEL 〇九〇一三三三〇一六八〇九
 (自宅)神奈川県相模原市緑区元橋本町九一六

木下サーカス株式会社

 代表取締役
社長 **木下 唯志**

 〒700-0822 岡山市北区表町三二二二二二
 TEL 〇八六一三一一〇四一一
 FAX 〇八六一三一一〇四九七二
 E-mail:webmaster@kinoshita-circus.co.jp

アサガミ株式会社
マイプリント株式会社

 代表取締役
社長 **木村 健一**

 〒100-0005 千代田区丸の内三一一一一
 TEL 六八八〇一三三三九
 FAX 六八八〇一三二四〇

株式会社大和総研

 顧問 **草木 頼幸**

 〒192-0906 東京都八王子市北野町一五四
 TEL & FAX 〇四二一六四四一五八九三

野村不動産ホールディングス株式会社

 代表取締役社長
グループCEO

沓 掛 英二

 〒163-0566 新宿区西新宿一〇二六二二
 TEL 三三四八七七八〇五
 FAX 三三四三一〇四四五

有限責任監査法人トーマツ

 包括代表
國井 泰成

 〒100-0005 千代田区丸の内三二二二二
 TEL 六二二二二二二二二
 FAX 六二二二二二二二二

日本電子株式会社

 CEO 兼
栗原 権右衛門

 〒196-8558 東京都昭島市武蔵野三一一二
 TEL 〇四二一五四三一一一
 FAX 〇四二一五四三一一一
 http://www.jeol.co.jp

日生流通運輸倉庫株式会社

 取締役会長
黒崎 昭男

 〒362-8570 埼玉県上尾市大字平塚二六五一一
 TEL 〇四八七七七六四八九
 FAX 〇四八七七七六四九一

日本共同株式会社グループ
城南不動産販売株式会社

 代表取締役
会長 **小島 清治**

 〒141-0022 品川区東五反田二二二〇一四
 TEL 三三四四一三三三
 FAX 三三四四一三三三
 (携帯) 〇九〇一三三三七四三三三

総合物流をはじめとする多彩なサービスを
 “お客様のご満足”と“安全”をモットーに
 提供し続ける会社、それがアサガミです


アサガミ株式会社

 本社：東京都千代田区丸の内3-1-1
 TEL (03) 6880-2200 FAX (03) 6880-2230
<https://www.asagami.co.jp>

株式会社スヴェンソンホールディングス

代表取締役
会長 児玉圭司〒107-0052 港区赤坂一―九―一三
TEL 三五八六―〇〇―一
FAX 三五〇五―五七九七

株式会社五味建築設計事務所

代表取締役
社長 五味道雄〒164-0001 中野区中野一―五五―一
TEL 二三六三―四六―一
FAX 二三六三―四六―一
APEC ARCHITECT

小山税理士法人

会長 小山修

〒342-0056 埼玉県吉川市大字平沼二六三番地
TEL 〇四八―九八二―〇三六〇
FAX 〇四八―九八二―〇三三九

東神興業株式会社

社主 根田哲雄

代表取締役 根田吉雄

〒167-0043 杉並区上荻一―二三―一九
TEL 五三三三―五八六―一
FAX 五三三三―五八六―〇

一般社団法人健康ニッポン

会長 齊藤柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八―六四四―〇〇八五
FAX 〇四八―六四四―〇三〇六

株式会社HEXEL Works (クセルワークス)

取締役兼
執行役専務 坂本孝行〒105-0012 港区芝大門一―一―三〇
TEL 三四五九―三三六―六
FAX 五四〇四―六七―五

株式会社アーバンコンサルタンツ

代表取締役 坂本道昭

〒101-0021 千代田区外神田二―三―七
TEL 三二五二―二七五―〇
FAX 三二五二―二七六―〇

学校法人明治大学

常勤監事 佐藤健

〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一―
TEL 三二九六―四〇〇―〇

株式会社シティハウジング

代表取締役
会長 佐藤仁〒144-0034 大田区西糀谷四―二八―一八
TEL 三七四二―七六〇―七
FAX 五七〇五―一八〇―九七

片倉工業株式会社

取締役会長 佐野公哉

〒104-8312 中央区明石町六―一―四
TEL 六八三二―一八七―三

株式会社廣澤精機製作所

代表取締役
社長 柴田清之〒300-4297 茨城県つくば市寺具一三三―一―
TEL 〇二九―八六九―一―一
FAX 〇二九―八六九―一―一創業昭和五十六年
東都ゴルフ株式会社東都ジャパン

代表取締役 杉浦伸二

〒103-0027 中央区日本橋三―一八―一〇
TEL 三二八二―一〇八―〇
FAX 三二八二―一〇八―〇

株式会社日本カーゴエクスプレス

代表取締役 鈴木隆志

〒105-0003 港区西新橋一―二〇―一九
TEL 五二五二―一〇二―一
FAX 五二五二―一〇二―一
<http://www.jcexp.co.jp>

大学と校友の皆様のかけ橋となります。
本年もよろしくお願いたします。

(株)明大サポート (明治大学外郭事業会社)

設立 1996年1月22日

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-3-1

明治大学大学会館地下1階

Tel: 03-5280-1500 Fax: 03-5280-1505

ホームページ <http://www.meidai-support.com>



明サポ情報満載

明大サポート公式アプリ





至高法律事務所

代表弁護士
園部洋士〒101-0041 千代田区須田町一―四―八
NCO神田須田町三F
TEL 五二〇九―三八〇一
FAX 五二〇九―三八〇四

合同会社高澤ビズアソシエツ

代表
高澤徹〒240-0006 横浜市長谷区星川二―一六―一三三
TEL & FAX 〇四五―三三六―四九七〇
(携帯) 〇九〇―二七五七―一六〇
E-mail:ttakazawa@ily.ocn.ne.jp

ダイアナ株式会社

代表取締役
社長
高橋郁夫〒150-0001 渋谷区神宮前一―八―六
TEL 三四〇五―四〇〇一
FAX 三四七九―八〇〇一
学校法人明治大学評議員

学校法人新潟大原学園

校長
高橋淑浩〒950-0086 新潟市中央区花園一―三―三
TEL 〇二五―二四六―八八八八
FAX 〇二五―二四六―一一八八

新日本建設株式会社

代表取締役社長
社長執行役員
高見克司〒261-0021 千葉市美浜区ひび野一―四―三
TEL 〇四三―二二二―一〇一
FAX 〇四三―二二二―〇七六四

ユニバーサル企業株式会社

代表取締役
田代恭一〒104-0045 中央区築地五―三―三
TEL 六二六四―七七一〇
FAX 五五五〇―三七七

連合駁台会

会長
田村駿〒154-0012 世田谷区駒沢二―四三―三
TEL 〇九〇―四三七〇―五三三二
北野建設株式会社顧問

連合駁台会

専務理事
当山明彦〒101-8301 千代田区神田駿河台一―三―一
株式会社明大サポート社長
TEL 五二八〇―一五〇〇
FAX 五二八〇―一五〇五

徳丸織物株式会社

代表取締役
徳丸平太郎〒335-0001 埼玉県蕨市北町三一五―四
TEL & FAX 〇四八―四四三―二〇五〇明治大学金融紫紺会副会長
明治大学雄弁部OB会会長
日本証券業協会金融・証券インストラクター**富水流孝二**〒170-0013 豊島区東池袋四―五―一
TEL & FAX 三九八七―一八九九

中根税務会計事務所

税理士
中根武〒170-0003 豊島区駒込一―二二―一六
TEL レジデンス六義園一F
FAX 三九四五―八五九四

セゾン投信株式会社

代表取締役
会長CEO
中野晴啓〒170-6048 豊島区東池袋三一―一―一
サンシャイン60・四八F
TEL 三九八八―八七一〇
FAX 三九八八―八六七三

株式会社ナガホリ

会長
長堀守弘〒110-8546 台東区上野一―一五―三
TEL 三八三六―四七一三
FAX 三八三五―〇八一五

船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤

ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具

ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —

**大石電機工業株式会社**代表取締役社長 **大石 哲也** 昭和63年工学部卒業

〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9

TEL 03-3761-2166 (代表)・FAX 03-3761-4851

<http://www.ohishi-denki.co.jp>

公益財団法人新聞通信調査会

理事長 西澤 豊

〒100-0011 千代田区内幸町二丁目一
日本プレスセンタービルF
TEL 三三九三二〇八一
FAX 三三九三二〇八二

西山商事株式会社

代表取締役
会 長 西山 武夫〒201-0004 狛江市岩戸北四一九一
TEL 三三八〇一四二〇
FAX 三三八〇一四三六五

株式会社ビッグKテニス

代表取締役
畠 中 君代〒177-0054 練馬区立野町三〇一
TEL 三九二八一一一三
FAX 三九二八一一一三

ネットトヨタ水戸株式会社

取締役
長 幡 谷 公朗〒310-0851 水戸市千波町一九八八
TEL 〇二九一四一三二二
FAX 〇二九一四三二六四四

岡部株式会社

代表取締役
会長執行役員 廣 渡 眞〒131-8505 墨田区押上二一八
TEL 三六二四一五一
FAX 三六二一七一六七

フジ企画株式会社

代表取締役
藤 代 耕 一〒221-0021 横浜市中区子安通一
TEL 〇四五四三三〇一〇
FAX 〇四五四三三〇六〇

弁護士

堀越 孝

アイム社会保険労務士法人

代表社員 真 家 裕 介

〒160-0022 新宿区新宿一六
TEL 五三六三二五五五
FAX 五三六三二四二八

株式会社ネットアルファ

取締役
榎 野 泰〒102-0072 千代田飯田橋二一三
TEL 三三六三二二〇一特別非営利活動法人さくら
さくら保育園

園 長 松 崎 優 子

〒279-0043 千葉県浦安市富士見四一六
TEL 〇四七一三〇三三九三七
FAX 〇四七一三〇三三九四七

株式会社松本商会

代表取締役
社 長 松 本 伸 一 郎〒354-0021 埼玉県富士見市鶴馬三四六
TEL 〇四九二五一〇六〇
FAX 〇四九二五一〇八〇〇

カルガモ引越センター株式会社

代表取締役
的 場 栄 一〒175-0092 板橋区赤塚三一二九一
TEL 〇二二〇三六五八八

学校法人松商学園

理 事 長 丸 山 律 夫

〒390-1295 長野県松本市新村二〇九五
TEL 〇二六三一四八七二〇七
FAX 〇二六三一四八七二九七

『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号
TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 相臺 志浩



ミズ太郎



エフ株式会社

代表取締役
会長

宮 下 隆

〒170-0005 豊島区南大塚三―三二―一〇
TEL 五九五〇―〇一五〇
FAX 五九五〇―六八〇五

ダイニチグループ

代表取締役
社長

六 井 元 一

〒279-0002 千葉県浦安市北栄一―一六―三
DNプラザビル
TEL 〇四七―三五四―〇一三三
FAX 〇四七―三五四―〇一九九
<http://www.dainichi.co.jp>株式会社大同
フレンドシップカントリークラブ

代表取締役

村 山 友 彦

〒100-0014 千代田区永田町一―一―四
永田町パレスサイドビル
TEL 三五八〇―三四四七

学校法人明治大学

理事長

柳 谷 孝

〒101-8301 千代田区神田駿河台一―一―
TEL 三二九六―四〇〇〇
FAX 三二九六―四三三二

株式会社やまたけ

代表取締役
社長

山 口 大 介

〒123-0841 足立区西新井五―三五―一三
TEL 三八九九―三七三七
FAX 三八九九―四六七二学校法人明治大学顧問
共同印刷株式会社社友

山 口 政 廣

〒273-0047 千葉県船橋市藤原七―一四―二〇四
TEL & FAX 〇四七―四三八―八六三五

株式会社日本金属工業研究所

取締役会長

山 田 朝 彦

〒113-0023 文京区向丘一―三一―一七
TEL 三八二二―二六七六
FAX 三八二二―〇〇三三
彫刻家日本芸術院会員 公益社団法人日展理事

税理士法人東京シティ税理士事務所

代表税理士

山 端 康 幸

〒163-0433 新宿区西新宿二―一―一
TEL 三三四四―三三〇一
FAX 三三四四―九〇五三
E-mail: yamahata@tokyocity.co.jp

株式会社バンダイロジカル

代表取締役
社長

弓 野 理 恵

〒124-8585 葛飾区東四つ木四―四二―一五
TEL 三六九五―五一五一
FAX 三六九五―五二六〇

カーネリアン税理士法人

代 表

吉 田 光 一 郎

〒103-0026 中央区日本橋兜町一―一―七
BIEム兜町ビル五F
TEL 五六二二―二九一〇
FAX 五六二二―二九一二

金魚の吉田 株式会社ヨシダ

代表取締役

吉 田 信 行

〒124-0023 葛飾区東新小岩五―一四―一七
TEL 三六九四―一三七五
FAX 三六九四―一三七五

桜神宮

教 主

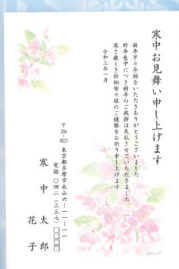
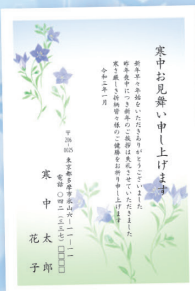
芳 村 正 徳

〒154-0014 世田谷区新町三―二二―一三
TEL 三四二九―〇八六九
FAX 三四二九―七四五二

株式会社ダイイチ

代表取締役
社長

若 園 清

〒080-2470 北海道帯広市西二十条南一丁目一四―四七
TEL 〇一五五―三八―三四五六
FAX 〇一五五―三八―三四三四

寒中見舞いはがき

印刷承ります



マイプリント株式会社

〒206-0025 東京都多摩市永山 6-11-11
TEL 042-337-8111 (代表) FAX 042-337-8121
<http://www.myprint.co.jp>

連合駿台会十一月例会

「なんとかせい！」

島岡御大の置き手紙

元明治大学野球部主将・エース
丸山 清光氏

連合駿台会の忘年会例会が、十一月十六日（水）十七時三十分より、初めての会場となるロイヤルパークホテル・ロイヤルホールで、丸山清光氏をゲストスピーカーとして開催されました。

当日の講演の要旨は以下の通りです。

*



「吉郎語録」を置き手紙としてまとめて

人間は誰でも「人生我が師」と呼べる人を何人か持つわけで、その出会いと縁は人生を変えることがあると思う。私にとっては島岡吉郎という「御大」を除いては考えられない六十数年だった。その半世紀を回想しながらこの『なんとかせい！ 島岡御大の置き手紙』を書いてみようと思った。

私はいま六十八歳、長野県の生まれで、明治の商学部から新聞社に入り、関連会社の社長などを務めてリタイアした今は、趣味のワインと野菜づくり、ウクレレ、それに一日千メートル以上泳いでいる毎日だ。また、私は十八歳まで長野県に住み、新聞社に入ってから二年間は北海道に赴任していたので、人生の半分近くの三十年を過ごした長野県と北海道に、リタイア後は何か恩返しをしたいと思って、両方を結ぶようなビジネスを起業した。しかしその途端このコロナ禍が始まって、現在は開店休業状態だが、コロナが終息したら活動を再開したいと思っている。

最近懸念することは、日本の政治の劣化が止まらないこと。十月の総選挙の投票率は上がると思ったが、結局は五六%にも届かず、戦後三番目の低さというのは日本の危機である。温暖化や核兵器の問題、さらに隣国の中国・韓国に対する日本のスタンスもまずいと思っている。こういう問題を打開するような

政治家が出てこない限り、若者をはじめ選挙に行く人は減るばかりで、これが続けば続くほど日本は危うくなるだろう。経済も大事だが、基盤になる人としての心持ちを大事にしていかなければならないと考えている。

ここから野球の話になるが、私の高校時代、高校野球の長野県代表と言えば、丸子実業か松商学園だったので、丸子実業に入ってから甲子園出場が夢だったが、上田高校に行くことになり、予選で負けた。早稲田の白いアンダーシャツに憧れて、早稲田にも出願したが受験はせず、明治に入学できて本当によかったと思っている。〃信州人の島岡〃という人を初めて知ったのは、明治大学に入ってからだった。というのは、長野県は南北に長く、私は北、島岡御大は南のほうだから、行き来が少なかったこともあっただろう。

以前から、島岡御大のことを書いてみたらいろいろなところで言われていたが、新聞社勤務とはいっても私は記者ではないので、ずっと断り続けていた。実は星野仙一さんをはじめ、島岡本というのは結構あるのだが、口述筆記を文章にまとめて出版したものがほとんどの中、教え子が初めて自分の筆で書いた、ということでOBからも褒められた。

直接のきっかけは二〇一九年の秋、長野県飯田市の隣・高森町にある御大のお墓参りの後、御大の本を出したらどうだろうという話

が出たが、その時は酒の席で盛り上がったただけで終わった。翌月、孫が生まれたお祝いでワインを飲んでいたところ、二杯目で心臓がおかしくなり、自分で心筋梗塞だと直感してタクシーで病院に向かうと、即手術。ちょっと遅ければあの世に行っているところを何とか取り留め、今は二回目か、三回目の人生を送っている感じだ(笑)。入院五日目、医者から許可をもらいパソコンに向かって御大のことを書き始めると、あつという間に原稿用紙百枚を超えた。これは面白いからちよつと書いてみようと思って二百枚まで書くき上げ、それから資料も集め始め、この三百五十ページほどの文量になった。

たまたま文藝春秋に知人がいた関係で二〇二〇年に刊行されたのだが、御大が亡くなった三十一年目のこと。本を出す時にお世話になった担当編集者から褒められたのは目次。一般的には、はじめに、第一章、第二章……、おわりに、というのが本の流れだ。その「章」を「御大からの置き手紙」という意味を含め「通」に変え、「はじめに」を「拝啓」に、「おわりに」を「敬具」にして、さらに「返信」までつけて見出しにしたからだ。

ここに書いてある内容は、われわれ選手の中では「吉郎語録」と言って、一杯飲みながら話していたもので、メモも何もない。半世紀前に御大が言い続けてきたことを書いただ

けだ。つまり御大が言ったことが身体の中にしみついている。今思えば、御大は同じことを同じ調子で一字一句違えず、三十七年間言い続けてきたわけだ。言葉に無駄がない、余計なことを言わないのは「指示」の原則かもしれないが、ただ同じことを何度でも何度もフレインする。ある意味では教育者であり、ある意味では政治家でもある。もともと政治家になりたかった人だから、その道を選んでいたらどうなっていただろう？　と思うと興味深い。

この中で特に面白いと言われたのは、「こは野球部の合宿所ではない。人間修養場だ」(第1通)、「野球の前にまず、人間の修養を積み」(人間力を磨け)「不得手に挑戦」(第2通)、「島岡式勝利の方程式は、(技術×練習)×元氣+その日の調子」(第4通)、「同じレベルだったら下級生を使う」(第5通)。「グラウンドの神様に謝れ」(第8通)はよく他の本にも出てくるが、「社会に出たら労働基準法などないと思え、ひたすら働け」(第10通)……、今こんなことを言ったらとんでもない(笑)。でも現代社会にはこういうものが欠けているから、懐かしく感じる人がいるのも事実だろう。

「打倒早慶」は六大学野球を盛り上げた

島岡吉郎という人は「東京六大学野球」で

なかったら、おそらく監督をやっていないかったと思う。御大が明治の監督に就任した二十七年前の一九二五(大正14)年に、東京六大学野球は結成された。その十一年前に三大学野球(早慶明)というものが明治の提唱で始まるのだが、御大はその三年前・明治四十四年に生まれている。六大学野球の勃興については、早稲田と慶応の存在抜きには考えられないが、その中で明治の果たした役割はとても大きかった。

さらに極論すれば、内海弘蔵先生うみひろさうの存在がなければ、六大学野球はなかったかもしれない。この方は、早稲田と明治の講師を経て明治の教授となつて、一九一〇(明治43)年に明治大学野球部ができたと同時に、野球部長に就任している。一九〇三(明治36)年に始まった早慶対抗戦は、応援の仕方などによる双方のいがみ合いで、十九年間にわたり対戦がなかったが、内海先生は早慶戦を復活させるべく中心になつて動き、先ほども述べたように三大学リーグができ、四大学目に法政が、五番目に立教が加わることになる。

六大学野球がスタートした前年に行われたリーグ設立への理事会でも、慶応が設立の延期を三度申し出て難航し、一時はリーグ解散もやむなしとの意見すら出たが、その時も辛抱強く説得したのは内海先生だった。早慶戦復活の度重なる折衝がなければ、六大学野球

（東大の正式参加は一九二五年）も違っていたかもしれない。明治の、そして内海先生の忍耐強さ・辛抱強さ、十一年間にわたって早慶戦の復活を説得した結果、現在の六大学野球がある。早慶戦を花形にした源は明治だった。最初の三大学時代は、リーグ戦とは言えない。しかし当時の大学野球熱はすごく、大勢のファンが押し掛けたという。そんななかで、「早稲田・慶応に入っても、早慶戦はできないけど、明治に入ればどちらとも試合ができるよ！」と言って勧誘したという逸話も残っている（笑）。

島岡御大も六大学野球の明治だったから監督になったのだと思う。私は当初、当時の鵜澤うざわふさあき総明総長から請われて監督を引き受けたと思っていたが、実は御大は大学の監督に就任する六年前、一九四六（昭和21）年に明治高校（当時は明治中学）の監督に就いて、四年後の春と夏、翌年の選抜と三大会連続で甲子園の土を踏んでいる。その時から、いずれは明治大学の監督をやろうという野望があった。自分で勝ち取った監督就任だったようである。我々とは志が違う。御大が執念のように言い続けた「打倒早慶」は、同じ六校の間で繰り広げられるリーグ戦だからこそ可能だった。果敢に挑むことで、六大学野球を盛り上げることを考えていたのかもしれない。

自分の本望を遂げてからの三十七年間は、明治だけでなく六大学野球全体のことを考え続けた代表的な監督だと思っている。

当初、東京六大学野球という呼び名はなかった。当時の新聞の記載は大学リーグ、これはイコール東京六大学野球で、つまり野球と言えは六大学、六大学と言えは野球というのが当時の定番。そこから様々な交流が生まれ、東京六大学という概念になっていったのは、野球がきっかけだった。源といわれる早慶、接着剤の明治が入って、法政、立教が加わって、最後に最高学府の官立の帝大が入ったことで、非常にバランスがとれた。そしてこの状態がほぼ百年続いている。

ただ、五校目に関しては、紆余曲折があったという。定説では、法政まではすんなり決まったが、立教の他には、青山学院、明治学院、中央、専修、学習院、国学院、日大あたりも候補だったらしい。早慶との親密関係では、早稲田は青山学院、慶応は明治学院だったが、これを入れると早慶園ができあがってしまう。また同じ法律学校から始まっているが、中央と専修はイギリス系で、フランス系法律学校が母体である明治と法政とはちょっと路線が異なる。学習院は京都から来た大学、国学院と日大は日本古来の流れをくみすぎている……、という消去法で立教が入った。六校目に官立の旧制一高（東京帝大）を入れる

ということは、内海弘蔵先生の母校であったこと、そして飛田忠順とびたただよる早稲田大学初代監督の推薦もあつてすんなり決まった。

御大の「人生我が師」

先にも述べたように、私と島岡御大との出会いは、十八歳で明治に入学してからだった。同じ信州人だということも知ったし、母校・上田高校には、毎年明治からコーチが来ていたという縁もあつて、御大と会った時は、初めてのような気がしなかった。入学後、調布の「明和寮」に入るのだが、当時は百人くらいが生活していた。周りを見れば甲子園に出た有名選手ばかりだし、しかも寮の規律は厳しい……、長野県の片田舎からとんでもない所へ来たと感じたものだ。

冒頭で「人生我が師」という話をしたが、御大にも「この人がいなければ、この人と関わらなければ、今の自分はない、いつもどこかで感謝している」と口癖のように話している人が二人いた。

ひとりきむむしやいちは木村頌一先生、御大が高等小学校のころ、地元で初めて野球を教わった飯田中学野球部の人だ。私の母校・上田高校が初めて甲子園出場を果たした時の監督でもある。実は上田中学のOB二人（宮原清と桜井弥一郎）が、一九〇三（明治36）年、東京六大学野球の原点となった早慶第一回戦のメンバー

の中にいたことを知らされたのは、明和寮の監督室へ御大に挨拶に行った時のことだった。「お前の母校の先輩が二人も慶応の先発メンバーに名を連ねている。二人とも野球殿堂入りもしているぞ、覚えておけ」と言われた。こういう関係もあって、上田高校には慶応からコーチが派遣されていたのだが、木村先生が上田高校の監督に就任してからは、御大の命令で、明治のキャプテンクラスが上田に来るようになった。明治からコーチが来ていなければ、私は明治に入学していなかったかもしれない。御大は終生、木村先生を恩師と言って敬わっていた。

もう一人は武田^{たけだ}孟先生、一九五三（昭和28）年に、御大が初めて優勝した時の部長で、二人三脚で当時の明治の野球を盛り上げた。学長就任後も、野球への強い愛情から部長を続け、全日本大学野球選手権大会史上初の連続優勝ほか、明治黄金時代を築いた。一九六四（昭和39）年、明大総長就任と同時に第四代日本学生野球協会会長となり、一九八三年（昭和58）年まで二十年の長きにわたって同職を務め学生野球の普及、発展に尽力した。その後、札幌大学の設立にも尽力、学長にも二度就任して、札幌大学を北海道の私学の雄に育て上げ、野球部をはじめ運動部の強化も図った。

御大は、没後二年目の一九九一（平成3）

年、野球殿堂入りを果たしているが、競技経験のない者への競技者表彰（現在ではアマチュア関係者には適用されていない）は、後にも先にも御大だけである。一方、明治の野球部長経験者では、初代の内海先生とこの武田先生の二人が野球殿堂入りしている。

「打倒江川」は島岡野球の集大成の序章

明治で投げられたことは本当によかったと思う。何より島岡吉郎という人と会えた。こういう監督とは二度会えないというより、二度と出てこないだろう。独特の個性で、野球だけでなく人間のあり方を教えてくれた。また目標が実にわかりやすく、明大野球部の存在意義は「打倒早慶」だった。そして、応援のありがたさもしみじみ感じたものだ。明治の応援は、大差で負けていても帰ることはない。これは応援団の力が大きかったと思うが、応援がない六大学野球はありえない。

「打倒江川」は、島岡野球の集大成の序章だったと思う。応援団上がりの素人に監督が務まるのか、ということ、当時のOBからも相当批判があった中で、監督就任、以来三十七年間の監督生活の中で、江川に勝つということは、六大学野球指導者としての御大の執念のようなものではなかったかと感じる。

一九七五（昭和五十）年五月三日の対法政一回戦、私にとっては二度目の江川との直接

対決。高めを振らない作戦で江川から初めて二桁の十安打を奪い、延長十回、3対2で法政を下した。勝ちが決まった瞬間の御大の表情は忘れられない。「破顔一笑」を飛び越えて、「なんとかせい！」が「なんとかなった！」と天にも昇ったような崇高な笑顔が忘れられない。二回戦は法政に敗れたが、三回

【講師略歴】

丸山清光（まるやま・きよみつ）

一九五三（昭和28）年、長野県生まれ。

一九七二（昭和47）年、長野県立上田高校卒業後、明治大学商学部入学。

在学中は硬式野球部所属、島岡吉郎監督の下で東京六大学リーグ優勝3回。主将・エースとして活躍した一九七五（昭和五十）年は、江川卓を擁する法政を抑えて春秋連覇。投手としてリーグ通算20勝7敗。

卒業後は朝日新聞社入社、販売局勤務を経て、関連企業の朝日トップス、朝日サービス社長を歴任。現在は合同会社北海道信州グッドラボ代表。

座右の銘は

「情熱に勝るものはなし、日々鍛錬」

二〇二〇（令和2）年に出版した、『なんとかせい！ 島岡御大の置き手紙』（文藝春秋刊）は、厳しくも愛のある島岡哲学が余すところなく盛り込まれたノンフィクションとして、高評を得ている。

戦は三度目の対戦となり、4対2で競り勝った。その後は早慶戦の前に完全優勝を決めた。江川の剛速球対策を成功させた御大の執念は、野球の試合に勝つことより、六大学で戦う意地を教えてくれた。

リーダーがひとつのことを成し遂げる思いを、自ら組み立て、下に伝え、実践する術は、精神野球、人間力野球を超えた御大の卓越した力量としなければなるまい。「打倒江川」が叶った後、昭和五十三年と五十六年に、全日本大学選手権と日米大学野球選手権を制覇しているが、素人監督がここまでやったということは、これはもう集大成だ

島岡御大の野球技術は素人、でも発想はまさにプロである。野球の技術は教わらなかったが、口を酸っぱくして言われたことは「よく走れ、よく投げろ」。そして「投手の四球は勝利の方程式を壊す」、これは四球を出したら交代させるということだが、四球を出さないようにすると、ボールが揃う。投手はストライクを取らなくてはならないところを投げながら覚えるようになる。自分で考えろ、ということをお教えたかったのだと思う。

そして試合に勝つ以上に、東京六大学野球で大学の看板を背負って神宮で戦う意地を教えてくれたと思う。御大は明治の監督だったが、六大学野球、もっと言えば野球界全体のことを考えていた人だったのではないか。

「一事入魂 島岡吉郎」

揮毫を求められると、御大はよくこう書いた。「二球入魂」の次は、社会で「一事入魂」。「一事が大事でも小事でも、魂を込めて事にあたれば相手に通ずる」と説いた。そして「大事も小事も自分で決めるな、それを決めるのは周りの人だ」と付け加えた。

御大は、短気で感情の起伏が激しい、厳しい性格だというのが定評だが、ふだん歓談している時は、気性の激しさは微塵ほどもなくまるで好々爺だった。人を包み込む人間味溢れる優しさがあり、この優しさこそが御大の真髓であつたと思う。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。
(敬称略)



いがらし じん
五十嵐 仁
昭和五十四年・商学部卒
(株)永谷園
代表取締役社長
千葉県市川市在住

◆明大ニュース

●明治大学創立一四〇周年記念式典を挙

学校法人明治大学は創立一四〇周年を記念し、創立記念祝日となる十一月一日に「明治



大学創立一四〇周年記念式典」を駿河台キャンパス・アカデミーホールで挙

式典は、田部井茂総務担当常勤理事の開式の辞から開始した。初めに柳谷孝理事長と大六野耕作学長が式辞に立ち、それぞれ百四十年前に明治法律学校を創設した三人の創立者(岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生)の志に思いを馳せながら、大学を代表して式辞を述べた。

柳谷理事長は、式典内で創立一五〇周年に向けた次期長期ビジョン「MEIJI VISION

「『前へ』」を発表することについて言及し、「本学がこの二十一世紀にアジアのトップユニバーシティ、そしてアジアのハブとして未来に輝き続けていくために、ビジョン実現に取り組んでまいります」と語った。

大六野学長は、明治大学がこれまで幾多の困難や危機に直面するたびに、大学関係者が「同心協力」し、「権利自由」「独立自治」の理念をその時々の中で具現化してきたと振り返り、今後は「世界の諸問題に正面から立ち向かい、自ら状況を切り拓く『前へ』の精神を持ち、問題解決への道筋を提示できる『Thinkers』（思索者）であると同時に、そのアイデアを社会実装できる能力を備えた『Doers』（実行者）を広く社会に送り出したい」と力強く表明した。

続いて、ご来賓の寛仁親王妃信子殿下から祝辞を頂戴した。信子妃殿下は、二〇一九年一月の全国ラグビーフットボール選手権大会を観戦されたことが縁となり、柳谷理事長より今式典へ招待させていただいたことを述べられた。そして、「今後も明治大学からの卒業生が経済界をはじめ多くのフィールドで活躍し、多様な『個』を磨き、自ら切り拓く『前へ』の精神を堅持して、さまざまな困難に立ち向かえる英知を備えた人材を、国際社会に送り出していただけると確信しております」とのお言葉をいただいた。

さらに、来賓から末松信介文部科学大臣（義本博司事務次官が代読）、本学校友の萩生田光一経済産業大臣、早稲田大学総長の田中愛治・日本私立大学連盟会長が代表として祝辞に立った。また、本学校友で第八十一代内閣総理大臣の村山富市・校友会名誉会長からの祝電も披露され、「百四十年の伝統を踏まえてさらに輝かしい歴史を刻んでいくことを期待いたします」などとするメッセージが本学に寄せられた。

式典では功労者表彰も執り行われ、個人四人と七団体が表彰された。それぞれ代表として前校友会会長で校友会名誉会長の向殿政男氏と連合駿台会の田村駿会長へ表彰状と記念品の贈呈が行われた。

続いて、柳谷理事長と大六野学長による次期長期ビジョン「MEIJI VISION 150『前へ』」の発表が行われた。ビジョンの発表に先立ち、本学校友で声優・マルチクリエイターの三ツ矢雄二さん、本学卒業生父母で声優・女優の日高のり子さんがナレーションを務め、創立一三〇年以降十年間の本学の歩みをまとめた動画も放映された。

柳谷理事長と大六野学長は、五つの項目に基づいて十年後のビジョンを紹介し、最後に、「権利自由」「独立自治」を建学の精神とする本学は、人間が人間として生きるに値する平和で持続可能な社会を創出する教育・研究

拠点を目指します」（大六野学長）、「学校法人明治大学は二〇二二年度からビジョンおよび方針を実現するための具体的な施策として、第三期中期計画に取り組んでまいります。創立一五〇周年に向けて、どんな困難に直面しようとも歩みを止めることなく『前へ』突き進んでいくことをここに宣言いたします」（柳谷理事長）と締めくくった。

終わりに、「明大アイデンティティ我等に燃ゆる希望あり〜校歌誕生一〇〇年記念プロジェクトとのコラボレーション企画」として、本学校友でハーモニカ奏者の寺澤ひろみ氏による明治大学校歌初演の再現演奏や、「明治大学校歌『誕生物語り』と題する明治大学校歌の誕生秘話に関するアニメーション映像と混声合唱団による校歌合唱動画などが放映され、大原幸男経営企画担当常勤理事の閉式の辞をもって式典は終了となった。



◆駿台トップックス

●第十八回連合駿台会ゴルフ会を開催

春季は中止となった連合駿台会ゴルフ会のゴルフコンペが、十一月十日、鷹之台カンツリー倶楽部で、十七名の参加のもと当日は絶好の天候に恵まれ、コロナ禍の中で一息つける絶好のゴルフ日和となりました。

ダブルペリア方式による成績結果は、優勝は当倶楽部の社長でもある関根宏一会員（昭和三十九年・農卒）、準優勝およびベストグロス賞は黒崎昭夫会員（昭和五十年・政経卒）、三位は久しぶり

に参加の坂田英夫会員（昭和四十九年・商卒）、で、陶芸家武内裕会員作の優勝カップと陶器が副賞として贈られました。次回第十九回目になる春のゴルフ会は、四月二十一日、茨城県・筑波カントリークラブで開催される予定です。



◆十一月例会出席者

青柳勝栄、浅井宏、阿部倫明、荒木吉哉、飯田和人、泉山和久、伊東正博、同ご友人、井上欽也、同ご友人、猪田忠、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、内川雄一郎、梅野修、榎本知佐、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、鬼塚和也、加賀美猛、金井健、金子圭太、狩野省市、栢森靖、河村博、神田達治、神林光、木下唯志、國井泰成、栗原権右衛門、黒崎昭男、小井戸亮文、小島清治、児玉圭司、五味道雄、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、坂本道昭、佐藤健、佐藤仁、佐野公哉、柴尾雅春、柴田清之、杉浦伸二、鈴木隆志、同ご友人、田口幸隆、武内裕、田代恭一（代理）、田中等、田村駿、田村健、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、徳丸平太郎、富田浩志、富水流孝二、中川敏洋、二井康夫、西澤豊、西山武夫、根岸伸明、萩原裕次、長谷川進一、塙英幸、馬場範夫、林威樹、深代尚夫、福田和彦、堀越孝、真家裕介、眞壁八郎、榎野泰、松崎優子、的場栄一、三浦栄治、宮入知喜、向井眞一、村岡健、室井恵明、本橋尚樹、森一朗、柳谷孝、山口大介、山口政廣、山田朝彦、山村明好、吉田光一郎、吉田信行、渡邊建三

【編集後記】

明けましておめでとうございます。
コロナ禍となり、二年が過ぎました。
私たちの生活は一変し、行動自粛を強いられ、経済活動も制約を受けました。当会の活動も中止が続いていましたが、待ち望んだコロナワクチンの接種が始まりました。

八〇%近い方がワクチン接種を済ませ、十一月には感染者も落ち着いてきたことから、感染予防対策を徹底した上で対面での例会が開催され、久しぶりに楽しい時間を過ごすことができました。

東京でも日々の感染者が2桁と、やっと長いトンネルから抜け出し色々な活動が再開できると思った矢先、新種のおミクロン株が急激に感染者を増やし、年明けには一気に数千人の規模となり再び暗いトンネルの中です。

しばらくは日常を取り戻すことは難しく、改めてWithコロナ時代に対応した活動を模索しなければなりません。

明治大学で学んだ「前へ」の精神を生かし、活動を止めないよう頑張りたいと思いますので、今年もよろしく願います。

（根田吉雄）